

あかふじ

ニュース

第 9 号

発行 平成25年3月
山梨県消防防災航空隊



《山梨県ホームページ》
<http://www.pref.yamanashi.jp>

《やまなし防災ポータル》
<http://www.pref.yamanashi.jp/bosai>

山梨県消防防災航空隊
〒400-0108 山梨県甲斐市宇津谷 445-1
TEL 0551-20-3601
FAX 0551-20-3603
E-mail bousai-kokuu@pref.yamanashi.lg.jp

- ・平成24年度緊急運航出動実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- ・総飛行時間5000時間を経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- ・動態管理システム搭載について・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- ・山梨県消防防災ヘリコプター支援航空隊員について・・・・5
- ・合同訓練実施内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- ・卒隊隊員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

平成24年度緊急運航実績報告

今年度の緊急運航は3月1日現在で84件

区分	件数 人員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計	
救 助	救助件数	3	4	4	7	15	4	13	11	6	7	74	
	救助人員	3	3	5	8	16	5	9	10	5	4	68	
救 急	救急件数					1		1	1		1	4	
	搬送人員					1		1	0		1	3	
火 災	災害件数	1					1		1			3	
	飛行回数	1					1		1			3	
災害応 急対策	災害件数									2		2	
	救助人員									0		0	
相互応援・ 広域航空応援・ 緊急消防援助隊	救助	救助件数							1			1	
		救助人員							2			2	
	救急	救急件数											
		搬送人員											
	火災	災害件数											
		飛行回数											
	その他	災害件数											
		救助人員											

今年度の災害件数は上記表のとおり、平成25年3月1日までに84件でした。この内、救助活動件数は75件で、山梨県内の活動が74件、長野県で1件の救助活動を行いました。また、救助活動に伴う救急搬送人員は救急活動での搬送人員と合わせて72人でした。

緊急運航全体の89%が救助活動で、中でも山岳救助については65件と救助活動の86%を占めました。

災害応急対策活動では12月に発生した中央自動車道笹子トンネル天井板崩落事故に伴い上空偵察を行いました。

総飛行時間5000時間を経過

「あかふじ」は平成24年7月18日に総飛行時間が5000時間を経過しました。無事故での5000時間は航空隊の発足から18年の間、各消防本部の皆様のご理解と御支援があったからであり、また多くのOB隊員の皆様が築き上げた伝統を受け継ぎながら、隊員・操縦士・整備士がお互いを信頼し、安全を第一に考え運航してきたからこそ成し得ることができたと思っております。この5000時間というものを一つの良き通過点とし、これからも慢心することなく、より安全に留意し運航に努めていきたいと思っております。

各消防本部の皆様には当航空隊の活動について御理解、御協力を頂いたことを深く感謝申し上げます。今後も、県民の生命・身体・財産を守るため全力で任務を遂行していきますので、御支援、御協力をよろしくお願い致します。

隊長 小幡浩一



～・～ 消防本部及び関係機関の方へ ～・～

今年度の運航検討会でもお願いしましたが、覚知内容で「ヘリコプターが必要かもしれない・・・？」と思われた場合、躊躇なく航空隊に情報提供の連絡をいただきたいと思っております。その後、ヘリコプターの必要がないと判断された場合は遠慮なくキャンセルしていただいても結構です。災害発生時の活動方針に、「ヘリコプター」という一つのアイテムを加えることで活動幅が拡大するとともに、迅速性が高まると考えます。

まずは気軽に事案発生時の情報提供をお願いします。



消防庁無償貸与による ヘリコプター動態管理システム搭載

当航空隊では、総務省消防庁より消防組織法第50条の無償使用制度に基づき、「あかふじ」に動態管理システムを搭載することとなりました。動態管理システムに必要な機材は耐空検査時に機体に設置し、検査後からの使用となります。

■動態管理システムとは…

航空機に搭載されたAIRMAP SYSTEM※1（エアマップシステム）より取得した航空機の位置情報を、イリジウム衛星通信※2を利用して地上局へ送信し、地上局で航空機の位置をリアルタイムに監視できるシステムです。航空機と地上局で双方向のデータ通信を確立することができ、地上からの位置監視の他にも様々な機能を利用することができます。

このことにより、飛行中のヘリコプターの位置情報を総務省消防庁、県庁、消防防災航空基地の端末（パソコン）に送信することができます。逆に、機内ではモニター画面に文字メッセージを受信することで、飛行中のヘリコプターに対する命令事項や災害現場、場外離着陸場などの情報事項の伝達を行うことができるシステムです。

さらに、大規模災害時には、消火・救助・救急・情報収集等多様な任務を遂行できる消防防災ヘリコプターが有効であることから、東海地震、首都直下地震等の際、消防庁が多数の消防防災ヘリコプターの活動（飛行）位置をリアルタイムで把握することが、効果的な部隊運用及び部隊の安全管理の重要な要素となるため、消防庁では設置を促進しています。

※1）AIRMAP SYSTEM（エアマップシステム）

GPS受信機からの位置情報により、電子地図上に自機位置をリアルタイムで表示するシステムです。電子地図には全国の道路地図データに加え、飛行場、ヘリポート等の航空関連施設や管制圏、特別管制区等の空域を収録したオリジナル地図です。また、詳細な市街地まで表示され、市町村名、丁目、番地、交差点名、建物の名前まで確認することができ、広域を表示することで空域全体を把握でき、航空図のように使用することもできます。

※2）イリジウム衛星

高度約780kmを南北に周回している通信衛星で、現在66個の衛星で全世界をカバーしています。ブラインドエリア（電波不感地帯）がなく、地球上すべての上空で通信が可能となり、地上での通信インフラの無い地域（高山、砂漠、極域、海洋）や、国内外を問わず自然災害などによる通信途絶時にも威力を発揮します。「あかふじ」においても、上空から要救助者や通報者へ連絡し素早い発見に役立っています。

■システム構成図



山梨県消防防災ヘリコプター支援航空隊員制度スタート

山梨県消防防災ヘリコプター支援航空隊員とは、山梨県消防防災ヘリコプター派遣職員取扱要綱により山梨県に派遣された職員（以下「派遣職員」という。）としての経験を有する者のうち、派遣期間満了後1年以内の者（以下「支援航空隊員」という。）が、消防防災ヘリコプターによる消防、防災活動（以下「航空活動」という。）にかかる技能を維持するとともに、本県において災害対策本部が設置された場合等において航空活動に従事することで、本県消防防災航空隊及び県内各消防本部の消防力の強化を図るための制度です。



◎訓練計画

今年度からスタートした本制度は年間訓練計画に基づき支援航空隊員の訓練を月1回のペースで実施しています。

訓練内容は救出救助訓練、給散水訓練、物資輸送訓練、ヘリTV及び小型受信装置取扱い訓練等を行い、自身の技量向上はもちろんのこと任期中に培った技術・知識を現任隊員へアドバイスしています。



訓練日には格納庫において駐機訓練を行った後に、ヘリコプターに搭乗し機体を使用した実機訓練を行います。



合同訓練実施内容

・山梨県水防訓練

(平成24年5月27日：韮崎市)

釜無川で実施した水防訓練に参加し、中州に要救助者が取り残された想定で救出救助訓練を行いました。当日は多くの人が見守る中、関係機関との連携やドクターヘリとコラボレートした活動など充実した訓練となりました。



・南アルプス市消防本部合同訓練

(平成24年6月7日：南アルプス市)

地震被害による孤立集落が発生した想定で合同訓練を実施しました。消防本部内の災害指揮本部に小型受信装置を設置し、被災地上空からヘリテレ送信を行い災害時の有効性を確認しました。



・多数傷病者発生時対応訓練

(平成24年7月3日：芦川町)

交通事故により多数の負傷者が発生したという想定で笛吹市消防本部及び消防団、富士五湖消防本部、東山梨消防本部、山梨県DMA T、山梨県ドクターヘリ及び消防防災航空隊が参加した大規模な訓練を実施しました。「あかふじ」は上空偵察や負傷者の搬送を行いました。

・笛吹市消防本部・消防団合同訓練

(平成24年6月3日：石和町)

笛吹市消防本部及び消防団と大規模災害に対して円滑かつ迅速な活動を行うことを目的に連携合同訓練を実施しました。笛吹川河川敷において給散水訓練や救出救助訓練を行い、連携強化を図ることができました。



・消防学校初任科教育実習

(平成24年7月17日：消防学校)

県消防学校の初任科学生を対象に午前には講義、午後は機体を使用した実機訓練や資器材展示等を実施しました。この学生の中に将来、航空隊に派遣される人がいるかもしれません。



・第49回甲府市総合防災訓練

(平成24年9月1日：甲府市川田町)

甲府市立甲運小学校において、地震災害等による被害を軽減することを目的に訓練を実施しました。「あかふじ」は上空から被災状況を災害対策本部に報告し、被災地への物資輸送などを行いました。

・都留市総合防災訓練

(平成24年8月26日：東桂小学校)

市防災訓練の一環として上空からヘリテレにより被災状況を送信し、災害対策本部前に設置した小型受信装置で被害状況を確認しながら情報の受伝達訓練を行いました。



・富士五湖消防本部連携合同訓練

(平成24年9月18日：富士吉田市)

諏訪の森公園（富士パインズパーク）において、山林火災・山岳救助・救急事案を想定した消防隊員投入訓練を実施しました。参加隊員は事前日に航空隊基地において駐機訓練を行い、当日は「あかふじ」に搭乗して降下訓練を行いました。また、降下訓練後は富士北麓公園駐車場において給散水訓練を行い、実災害時に円滑な連携活動ができるようにポンプ給水要領の確認を行いました。

・峡北消防本部合同訓練

(平成24年8月27日：韮崎市)

相互の連携体制を体得することを目的とし、格納庫で駐機訓練を行った後、韮崎滑空場で実機による隊員投入訓練を実施しました。



・甲府地区消防本部高度救助隊との連携訓練

(平成24年9月20日：甲斐市)

敷島総合公園において、バイクで走行中に運転操作を誤り崖下へ転落した想定で訓練を実施しました。当航空隊は、高度救助隊との連携訓練を、年間を通して実施することで信頼関係が確立し、災害時に連携のとれた救助活動が迅速に遂行できるよう訓練を行っています。



・日本航空学園創立80周年記念特別航空祭

(平成24年10月6日：日本航空学園)

日本航空学園創立80周年記念特別航空祭に伴いドクターヘリとコラボレートする訓練展示を実施しました。増水した河川に軽トラックが流され、荷台に要救助者がいるとの想定で「あかふじ」が救出した要救助者をドクターヘリに引渡す訓練を行いました。多くの人が見学しており「あかふじ」の良い広報活動が出来ました。



・自衛隊山林火災消火訓練

(平成24年9月27日：荒川ダム)

大規模山林火災を想定し甲府地区消防本部、自衛隊、山梨県及び関係機関との連携を強化して災害対処能力を向上させ、非常時の連携及び消火態勢の確立を図ることを目的とした訓練を実施しました。



・山梨県地震防災訓練

(平成24年10月14日：南部町)

阪神淡路大震災・新潟県中越地震・東日本大震災等を教訓として実践的訓練を南部町において実施しました。航空隊は応援機として長野県「アルプス」、群馬県「はるな」、静岡県「オレンジアロー」、埼玉県「あらかわ4」が飛来し、「あかふじ」を含めた5機による上空偵察・DMAT



搬送・中州や孤立集落からの救出救助・物資輸送・燃料給油訓練を行いました。また、峡南消防本部航空隊OBの方にも各訓練会場で安全管理等を協力して頂き、今後の山梨県内での活動にとっても有効な訓練となりました。



・ 上野原市消防本部との 連携合同訓練

(平成24年10月19日：
相模川河川敷、秋山HP)

周辺住民が見守る中、山岳での救急・救助活動を想定した連携訓練をレクレーション広場で実施しました。また、道路が寸断され陸路では搬送できない傷病者を「あかふじ」で搬送する救急連携訓練を行い、最後に秋山ヘリポートで燃料給油訓練を行いました。



・ 消防協会峡北支部連合演習 (平成24年10月20日：北杜市)

林野火災を想定した合同訓練をフレンドパーク武川で実施しました。空中消火用バケツに給水するポンプ給水を行い、消防団との連携活動の強化を図ることができました。



・ 高速道路災害活動連携訓練 (平成24年10月24日：富士吉田市)

中央自動車道富士吉田線で多重衝突事故が発生した想定で各関係機関と合同訓練を実施しました。「あかふじ」はヘリテレ送信による情報収集活動を行いました。



・富士五湖消防本部合同訓練

(平成24年10月25日、30日)
(平成24年11月19日)

平成25年度に緊急消防援助隊関東ブロック訓練が山梨県で開催されます。訓練会場になる富士吉田市、富士河口町、鳴沢村・山中湖村などで様々な課題等を事前に検証し、訓練環境の整備、構築を図っていくことを目的として救出救助・給散水・物資輸送・救急搬送の合同訓練を実施しました。当航空隊としては、今後、各消防本部においても、このような訓練を実施していきたいと思っています。



・消防学校専科教育救急科

(平成24年11月1日：消防学校)

専科教育救急科学生を対象に消防防災航空隊と救急隊との緊密な連携体制の構築を図るため、航空機の特性及び連携時の留意点を確認し、想定に基づく実機訓練を実施しました。



・富士五湖支部 秋季総合防災訓練

(平成24年11月3日：西桂町)

大規模な山林火災を想定した訓練を富士五湖消防本部及び消防団と合同で実施しました。災害指揮本部に小型受信装置を設置し、「あかふじ」は上空偵察を行いながら災害状況をヘリテレ送信し送受信状況の確認を行いました。

・笛吹市消防本部・消防団 合同訓練

(平成24年11月4日：石和町)

鶉飼橋下流の河川敷において、山林火災を想定した給散水及び上空偵察訓練を実施しました。消火用バケツへの給水要領や留意事項を確認するための良い連携訓練を行うことができました。また、多くの見物人がいたので防災意識の高揚、普及啓発活動にもなりました。



・秋の火災予防運動に伴う 総合消防訓練

(平成24年11月8日：甲斐市島上条)

甲斐市敷島総合文化会館において、静岡県沖を震源とする大規模地震が発生したとの想定で実施した総合消防訓練に参加しました。「あかふじ」は、特別救助隊が発見した腰椎損傷が疑われる負傷者を全身固定された状態で3階テラスから救出、病院へ搬送する訓練を行いました。

・ 県民の日記念行事 (平成24年11月10日)

県民の日記念行事の一環として、毎年恒例の機体展示などを甲府市小瀬スポーツ公園補助競技場において実施しました。今年も多くの子の方が集まり、訓練や機体を見学していました。



・ 埼玉県防災航空隊合同訓練 (平成24年11月21日：清哲訓練場)

埼玉県防災航空隊が来隊し、清哲訓練場において「あらかわ3」と「あかふじ」の両機体で訓練を実施しました。お互いの機体に搭乗して、それぞれの活動を間近で確認することができ、刺激をもらういい機会になりました。



・ 南アルプス市消防団 火災防御訓練 (平成24年11月25日)

南アルプス市西地区多目的活性化広場において給散水訓練を実施しました。山林火災を想定し、消防団が消火バケットにポンプ給水を行い、ヘリコプターの特性であるダウンウォッシュなどを体験することで実災害に備えた連携を図ることができました。



・ 場外離着陸場での 燃料給油訓練 (平成24年5月21日：丹波山村) (平成24年11月27日：小菅村)

備蓄燃料庫を備えた場外離着陸場で定期的にヘリコプターへの燃料給油訓練を消防職員と合同で実施しています。今年度は、実災害においても場外離着陸場で燃料給油を行ったこともあり、訓練の成果を発揮することもできました。



・総務省消防庁ヘリポートでの離着陸訓練

(平成24年11月27日：東京都)

東京都内で大規模災害が発生した場合や首都直下地震が発生した場合を想定して、災害発生時に安全かつ迅速に任務遂行するための地形慣熟訓練の一環として飛行経路の確認やヘリポートでの離着陸訓練を実施しました。



・群馬県防災航空隊視察

(平成24年12月17日)

相互応援協定を締結している群馬県への地形慣熟訓練と併せて防災航空隊を視察してきました。当日は短い時間の中、訓練の様子を見学し、お互いの資機材や機体の展示、意見交換を行うなど貴重な時間となりました。



・新潟県消防防災航空隊視察研修

(平成24年12月11日：清哲訓練場)

新潟県消防防災航空隊が視察研修のため来隊しました。格納庫において駐機訓練や各種資機材を見学し、「あかふじ」に搭乗して清哲訓練場で訓練を実施しました。



その他の行事

・航空隊経験者研修会

(平成25年3月22日：予定)

今年度は、前回の研修で実施した図上訓練を踏まえて、発災時におけるHB（ヘリベース）やFB（フォワードベース）での活動を想定し、燃料給油や物資輸送の際の注意点等を再確認してもらうとともに、実際に作業等を行ってもらう予定です。



昨年度の様子

卒隊隊員紹介



副隊長 田中 昭州
(笛吹市消防本部)
救 助：77件
救 急：17件
火 災：11件
その他：22件
(緊急消防援助隊含む)

出動合計：127件
救助人員：155名



隊員 田中 淳
(甲府地区消防本部)
救 助：66件
救 急：23件
火 災：7件
その他：14件
(緊急消防援助隊含む)

出動合計：110件
救助人員：142名



隊員 小林 茂明
(上野原市消防本部)
救 助：65件
救 急：25件
火 災：3件
その他：24件
(緊急消防援助隊含む)

出動合計：117件
救助人員：101名

※ 件数は平成25年3月1日現在



平成25年3月31日付で任期満了に伴い派遣元消防本部に帰任いたします。
「各消防本部ならびに各関係機関の皆様には3年間大変お世話になりました。これからはそれぞれの消防本部で地上隊及び支援航空隊員として航空隊のサポートを行いたいと思います。ありがとうございました。」

副隊長 田中 昭州 隊員 田中 淳 隊員 小林 茂明

